



第7回仙台国際音楽コンクール

ピアノ部門 : 2019年5月25日(土)~6月9日(日)

ヴァイオリン部門 : 2019年6月15日(土)~6月30日(日)

Vol.7-1

(2018.3.15発行 第7回コンクール関連 第1号)

インタビュー 郡和子 仙台市長 (仙台国際音楽コンクール組織委員会会長)

立春を過ぎたとある日の午後、穏やかな日差しの中、郡和子仙台市長（仙台国際音楽コンクール組織委員会会長）にお話を伺いました。



郡和子 仙台市長

ご自身の音楽、特にクラシック音楽との関わりについて、ご経験や思い出などお聞かせいただけますか？

私は、子供のころにピアノを習っていました。父もアマチュアオーケストラでヴァイオリンを演奏しており、家族皆が音楽好きでした。父のヴァイオリンに私のピアノ、弟はピアノカ、母はカスタネット（笑）と、家族でアンサンブルを楽しんだことが良い思い出です。私は合唱団にも所属していたので、今思えば、音楽が身近にあった子供時代を過ごしていたのではないかと思います。

今ではもっぱら聴くだけとなってしまいましたが、家事をする時など、その時の気分にあわせてクラシック音楽を流しています。

仙台国際音楽コンクールに対してどのような印象をお持ちですか？

審査委員の先生は高名な方々ばかりですし、出場者の中にはすでに世界でご活躍されている方もいらっしゃいます。まさに、仙台市が世界に誇ることでできるコンクールだと思っています。また、仙台という地名がつくことから、「楽都仙台」の代表的な催しとして、シティセールスの観点からもよいアピールになっていると考えています。

市民の皆さんにとっても、開催期間中は、音楽を一層身近に感じ、親しむことのできる機会となっているのではないのでしょうか。

先日は第7回コンクール開催発表記者会見が行われましたが、会見に出席され、印象に残ったことなどはございますか？

組織委員会の会長として、これまで回を重ねてきた当コンクールの開催概要を無事に発表させていただき、大変光栄なことだと感じています。驚いたのは、会場にとっても多くの方が取材にいらしたことです。様々な質問が飛び交い、中には音楽的に鋭い質問もありました。皆さんのコンクールに対する期待が非常に高いことを実感することができ、とても嬉しく思いました。

また、運営委員長の海老澤先生、審査委員長の野島先生、堀米先生は皆さん気さくなお人柄で、初めて会見に臨む私をとて温かく迎え入れてくださいました。このような雰囲気も、当コンクールが長く続いている理由の一つなのではないかな、と感じました。

実施要項などの詳細については、各先生方にお話しいただきましたが、才能ある若い音楽家の発掘や評価のポイントなど、演奏家としても一流の先生方がどのような観点から当コンクールを捉えているのかを知ることができ、とても勉強になりました。コンクールの開催は来年の5月下旬からなので、私もそれまでに勉強をしないと追いつかないですね（笑）

このコンクールでは、ボランティアが様々な活動を行っています。その印象をお聞かせいただけますか？また、ボランティアには、どのようなことを期待されますか？

ホームステイ受入れのボランティアとして活動している知人がおり、その方にお話を伺ったところ、出場者の滞在中は、練習時の気遣いはもちろん、家族皆で応援をされていることがよく分かりました。当コンクールでは、ボランティアの皆さんのホスピタリティが大変素晴らしいとの評判が広まり、新たな出場者を呼び込むことにも繋がっていると聞いております。まさに、ボランティアの皆さんに支えられているコンクールだと思います。出場者サポート、会場運営、ホームステイ、広報といった各部門で、本当に多くの市民の皆さんが運営に携わっており、そうした活動を誇りに思っておりますし、次回も皆さんのご活躍を期待しております。

コンクールに出場した音楽家たちは、出場後も仙台市民との交流が続いています。そういったことについてどう思われますか？

やはり、ボランティアとして関わっていらっしゃる皆さんが高く評価されている証だと思います。もちろん、コンクールへの出場自体が、出場者にとってもご自身の力を試す良い機会になっていると思いますが、それだけではなく、期間中、市民の皆さんとの間に生まれるつながりの深さが評価されているからこそ、交流が続いていくのだと思います。世界中のどこを見てもなかなか例のないコンクールなのではないでしょうか。

第7回コンクール出場を目指す若い音楽家へメッセージをお願いします。

当コンクールは、若手の登竜門ということだけでなく、すでに世界を舞台に演奏活動をされている方々も出場されるコンクールです。今回は、協奏曲を課題曲の中心とするという点に加え、ヴァイオリン部門において、出場者がコンサートマスターとしてオーケストラの中で演奏するという、国内のコンクールでは初の取り組みも行います。また、先ほども申し上げました通り、順位付けだけではなく、仙台市民の皆さんとの間に結ばれる絆も、当コンクールの大きな魅力であると自負しています。是非、多くの若い音楽家の皆さんに参加していただきたいと思いますし、行政としましても、精一杯努力してまいりたいと考えております。



「審査委員の先生方は、ご自身の演奏活動がありながらも、本当に長い期間にわたって仙台にとどまり、審査にご協力していただいているんですね」と、関係者への細やかな気遣いもお見せになった郡市長。

インタビューを終えた後、「幼いころの家族との思い出がよみがえり、とても心が温くなりました」とにこやかにおっしゃってくださいました。

郡市長、お忙しいところありがとうございました。

第7回仙台国際音楽コンクール（S I M C）開催要項が発表されました！

2018年1月17日、東京ミッドタウンで記者会見が行われ、第7回仙台国際音楽コンクールの開催要項が発表されました。記者会見には郡和子仙台市長（コンクール組織委員会々長）、海老澤敏運営委員長、野島ピアノ部門審査委員長、堀米ゆず子ヴァイオリン部門審査委員長が臨席され、来年開催されるコンクールの内容が説明されました。開催発表記者会見取材してきました。

第7回コンクールの6つの特徴

1. 今回はピアノ部門が先に開催され、その後ヴァイオリン部門が開催されます。
2. 第4回のピアノ部門優勝者、ヴァディム・ホロデンコさんが審査委員に就任しました。
3. ヴァイオリン部門では、新しい試みとして、セミファイナルに「コンサートマスターとしての演奏」が課せられます。
4. オーケストラの指揮を担当されるのは、ピアノ部門は広上淳一氏、ヴァイオリン部門は高関健氏です。
5. ヴァイオリン部門予選でのオーケストラ（指揮者なし）は仙台フィルハーモニー管弦楽団と山形交響楽団のメンバーが担当します。
6. ファイナルは両部門ともモーツァルトの協奏曲とベートーヴェンから近現代までの代表的な協奏曲の2曲で競われます。

記者会見の質疑応答では、モーツァルトに関する質問が多く出されました。両審査委員長が強調されていたのは、音楽家としてモーツァルトに取り組む重要性、そして演奏の難しさです。そのお話から「モーツァルトを制する者は、仙台を制す」と言っても過言ではない印象を受けました。そして、日本のコンクールでは初めての試みとなる、出場者にコンサートマスターとしての演奏を課すヴァイオリン部門セミファイナルも、本当に楽しみです。

また、各登壇者からボランティアによるサポートの素晴らしさが述べられ、誇らしく思うとともに、次回のコンクールへ向けて頑張らねば、という気持ちが一層高まりました。（広報宣伝サポート部門ボランティア 岡）

【第7回仙台国際音楽コンクール スケジュール】

申込受付期間 2018年6月14日（木）～11月14日（水）
予備審査結果発送 ～2019年2月15日（金）

■ピアノ部門■
2019年5月25日（土）～6月9日（日）

■ヴァイオリン部門■
2019年6月15日（土）～6月30日

会場 日立システムズホール仙台（仙台青年文化センター）

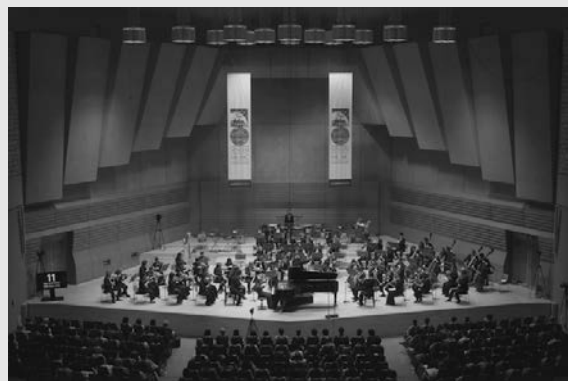
仙台国際音楽コンクールとは

仙台国際音楽コンクールは、仙台市が開府四百年を記念して2001年に創設、3年毎に開催されているコンクールです。才能ある若い音楽家を輩出することにより、世界の音楽文化の振興および国際的文化交流の推進に寄与することを目的として、ヴァイオリン部門とピアノ部門の2部門からなります。コンチェルト（協奏曲）を課題曲の中心に据えるという特色を持ち、若い音楽家がオーケストラと共演する演奏が審査されます。

コンクールは、書類と動画データまたはDVDによる予備審査を経て、仙台（日立システムズホール）で行われる予選、セミファイナル、ファイナルという構成になっております。

予選は、ピアノ部門では独奏で、ヴァイオリン部門では独奏とオーケストラとの共演で、セミファイナル以降は両部門ともオーケストラ（仙台フィルハーモニー管弦楽団）との共演による演奏が審査されます。予選以降は全て公開で行われ、第6回コンクールには約9,000人という観客が来場し、才能あふれる若い音楽家たちの熱演を楽しみ、彼らに温かい拍手を贈りました。

また、多くの市民ボランティアによる運営サポートもこのコンクールの特徴の一つです。彼らによる温かいおもてなしは、出場者だけでなく審査委員からも好評をいただいております。仙台国際音楽コンクールの大きな柱となっています。コンクール開催期間中の仙台市内では、次のラウンドに進めなかった出場者が各所で演奏する「チャレンジャーズ・ライブ」や、小中学校を訪問し演奏する「学校訪問ミニ・コンサート」などが数多く実施されるほか、審査委員を講師に迎えての「審査委員によるマスタークラス」も開催され、多くの市民がクラシック音楽を楽しみ、また、世界レベルの音楽家と交流を図る機会ともなっております。



課題曲、審査委員などさらに詳しい情報は仙台国際音楽コンクールの公式サイト <http://www.simc.jp/> でご覧になれます。

あなたも仙台国際音楽コンクールを 応援してみませんか？

～コンクールボランティア各部門紹介と体験談～

仙台国際音楽コンクールの運営は、4つの部門で活動するボランティアにサポートされています。事務局では2019年に開催される第7回のコンクールに向けて、一緒に活動して下さるボランティアを募集しています！！活動に参加すると新しい仲間との出会い、そしてコンクールが数倍楽しくなるかもしれません。皆様の参加を心よりお待ちしております。

☆会場運営サポート部門☆

(仙台国際音楽コンクール・仙台クラシックフェスティバル 会場運営ボランティア)

コンクール開催期間中や関連事業などで、受付や案内などを行う部門です。おもてなしの心を持って笑顔で接し、「仙台クラシックフェスティバル(せんくら)」でも活躍しています。

[体験談：石田香澄さん]

仙台ジュニア・オーケストラに中学から参加し、仙台フィルの皆さんとも交流を持つことができました。裏方の仕事もできたらと思い参加しました。演奏される皆さんが同じ課題曲を全く違った演奏すること。一般のコンサートや自分たちの演奏会とも違う何かがあることを感じました。この感動をお客様にも感じていただけたらと思います。また同世代の人にもボランティアに参加してほしいと思います。

[体験談：佐藤ふくみさん]

コンサートの受付で切符をきるもぎりがかっこ良く見えて参加しました。お客様から「ありがとう」「あなた良くやっているね」と声をかけられるのが最もうれしい時です。私は密かに「この人」と心に決めて応援していますがいろんな楽しみ方があると思います。クラシックを知らなくても、ボランティアが始めてでも先輩がしっかりサポートします。今まで知らなかった自分に出会えるチャンスです。



コンクール会場受付



広報誌「コンチェルト」と出場者用地図

☆広報宣伝サポート部門☆

仙台国際音楽コンクールを多くの人に知ってもらうためのPR活動を行う部門です。ボランティアの視点で編集した広報紙「コンチェルト」の発行、初めて仙台を訪れるコンクール出場者に仙台を紹介する「Map for SIMC Contestants」の作成ほか、ブログを使った情報発信も行っています。

[体験談：芦名麻知さん]

コンクール開催後の参加なので、まだ経験が浅いのですがインタビュー取材の時は、相手の方の事を急に下調べして対応しないといけません。幅広い年齢層で人生経験も豊富

[体験談：清水秀甲さん]

東日本大震災では、仙台市内も大きな被害を受け、私が所属する合唱団も音楽どころではない状況でした。そんな折、12月の「1万人の第九を歌う会」開催案内を受け、「生きて、第九を歌える喜びと、震災で亡くなられた方への鎮魂の祈りをこめて」参加しました。その1年後、もう少し復興のお手伝いできたらとボランティアに参加しました。コンクールでは聞きなれない課題曲に接し、良い曲だなあと新しい発見をしたり、音楽の本当の楽しさを再体験する貴重な機会になっています。

な先輩が多いので色々なお話が聞けて勉強になります。また他のボランティアに比べると自主性がとても高い活動だと思います。学生さんや若い人にたくさん参加してほしいです。

☆出場者サポート部門☆

世界各国から仙台に集まる出場者たちに寄り添って、仙台滞在をより有意義なものにしてもらうために、幅広い活動を行っています。コンクール関連事業や練習会場での通訳、出場者の休憩スペースであり、市民との触れ合いの場でもある「交流サロン」の運営、仙台滞在の情報サポートとともに、日本や仙台の文化を紹介する催しも開催しています。

[体験談：鈴木里奈さん]

英語が活かせるので参加しました。出場者に最高の演奏ができるようおもてなしの気持ちで臨みました。印象に残ったのは、公開練習場でのアテンドです。ある出場者から、もっと練習をしたいので有料でも良いから練習場を探してほしいと相談され、何かに電話を掛け、何とか対応できほったのを覚えています。個人的にサポートをした「あの人」が入賞したときは、自分のことのようにうれしかったです。

[体験談：鈴木敏夫さん]

退職を直前に控えていたタイミングで活動に参加しました、交流サロンで東日本大震災を紹介する写真を説明文を英語で作成したり、演奏後の聴衆の皆さんから集まる応援メッセージを英訳する活動などを行いました。参加できる時間を自由に選ぶことができたので積極的に参加しました。出場される皆さんに気持ち良く演奏できる雰囲気づくりができることを心掛けました。



交流サロンでの茶の湯体験



出場者とホストファミリー

☆ホームステイ受入れ部門☆

コンクール終了までの期間、出場を終えた出場者を家庭に受け入れる部門です。海外からの出場者だけでなく、日本在住の出場者たちもホームステイします。国際交流と共に、出場者との絆を深める時間を過ごすことができます。

[体験談：田中三千代さん]

過去2回のコンクールを経験しました。第5回コンクールで担当した出場者から、またお願いしたいと相談され第6回も活動に参加しました。彼女は2回ともファイナルに残ったので、

[体験談：野口径子さん]

2回、受入れ経験があります。本番にむけて長い時間練習してきたので、リラックスしたいと単独で日帰り旅行をしました。2人目の彼は審査員や別の参加者と接触する機会をたくさん作っていましたね。2人とも小学校訪問、チャレンジャーズ・ライブにも積極的に参加し、一緒に同行する機会がありました。2人ともコンクールの時とは別人のような表情で演奏していたのが印象的でした。次のコンクールも素敵な出会いがあれば良いと思います。

ホームステイは実現しませんでした。今でも交流は続いています。「仙台のママ」と慕われ、来仙の都度、一緒にお出かけしたり買物したり、信じられないですね。とても素晴らしい出会いが待っていますので、多くの人にチャレンジしてほしいですね。

★仙台国際音楽コンクールボランティア募集概要と活動説明会のご案内★

募集概要

- 募集対象：15歳以上の方（中学生を除く）で原則として第7回コンクール終了まで活動可能な方（2018年4月1日現在18歳未満の方は保護者の同意が必要です）
- ボランティアの申込方法
申込書に必要事項を記入の上、郵送、Faxにて下記申込先まで提出してください。
募集要項は、区役所や市民センターなど主な仙台市の施設に配置しています。また、公式サイトからの申し込みも可能です。
- ボランティア申込期限：2018年7月31日（火）必着

ボランティア活動説明会

日時：2018年6月22日（金）①19:00～20:30
2018年6月23日（土）②10:30～12:00 ③13:30～15:00
※①～③はすべて同じ内容です
会場：日立システムズホール仙台（仙台市青年文化センター）2階交流ホール
説明会への参加方法：直接会場にお越しください（事前申込み不要）

申込・問合せ先

〒981-0904 仙台市青葉区旭ヶ丘3-27-5
仙台市民文化事業団コンクール推進課（仙台国際音楽コンクール事務局）
[Tel] 022-727-1872 [Fax] 022-727-1873 [E-mail] info@simc.jp
[公式サイト] <http://www.simc.jp/>



仙台国際音楽コンクールを支える大きな力

仙台フィルハーモニー管弦楽団をもっと知ろう！【6】



仙台フィル マスコットキャラクター
(C)MIKIO IGARASHI/S.P.O

今回は仙台フィルハーモニー管弦楽団コントラバスソロ首席奏者 助川龍さんにお話を伺いました。



コントラバスソロ首席奏者 助川龍さん

仙台フィルコントラバスソロ首席奏者に就任されて4年になりますね。

仙台に来てから4年、私の夢はいつも会場を満席にすることです。演奏会には多くの方に来場していただけるよう、毎回クライマックスシリーズという気持ちで精一杯の演奏を心がけています。

両部門ともにモーツァルトともう1曲が課題です。基礎にしてみてもっと難しいモーツァルトはどのような演奏家なのか丸裸にされます。

それでは仙台国際音楽コンクールの演奏で気をつけているところはありますか？

コントラバスは一拍目の音を担うことが多い楽器です。ワルツで言うならズン、チャ、チャのズンです。出場者が表現したい音楽を引き出せるような一拍目を出してあげられればと思っています。仙台フィルのみんなも同じ気持ちで演奏しています。

コンクールで特に聴いて欲しいところはありますか？

優勝者が誰ということではなく、いろいろな思いを持って仙台にくる出場者たちの演奏を聴きにきてください。そういう意味では予選から彼らを応援して欲しいですね。一生懸命な演奏はきっと心を打つはずですよ。

仙台フィル以外での演奏活動でも活躍されていますね。

ミュージック・フロム・パトナでは、企画にも携わり、兄とのデュオ「助川ブラザーズ」では「せんくら」にも出演させていただいています。他にも仙台ジュニアオーケストラの講師や、公開レッスンなどもおこない、仙台を拠点とした活動を続けています。4月26日（木）のミュージック・フロム・パトナでは、先ほど話した青木尚佳さんにも出演いただきます。

仙台のファンにメッセージをお願いします。

敷居が高いと言われるクラシック音楽ですが、敷居を低くするのではなく、みなさんにその敷居を超えられるようなエネルギーをお届けできればと思って演奏しています。この楽都仙台で、満席の会場で一緒にクラシック音楽を楽しみましょう。

コンクール出場者との共演も多いですね。

昨年の「せんくら」では、津田裕也さん、スヴェトリン・ルセフさん、青木尚佳さんと共演しました。1月の定期演奏会でも青木尚佳さんと共演したのですが、青木さんはじめ出場者の方とは、コンクールで一緒に協奏曲を演奏し最良のものを作り上げようと頑張った、仲間というか同志のような感情があります。そうして築いた関係がその場だけで終わってしまわず続いていくというのが素晴らしいことだし、出場者の皆さんからは、帰ってきたと思ってもらえることはオーケストラの団員として何より嬉しいことです。

第7回の概要をご覧になっていかがですか？

ヴァイオリン部門セミファイナルの、ブラームスの交響曲第1番第2楽章の指定箇所をコンサートマスターとして演奏という課題がありますが、そこにはコンサートマスターがソロ演奏する部分があり、目を引きますね。ソリストとは異なる資質、アンサンブル能力も審査されることになります。出場者の評価がすぐに分かることになると思います。面白いですね。ちょっと楽しみです。ファイナルでは

♪編集後記♪

初インタビュー！盛り沢山の興味深いお話を紙面のスペースに何とか圧縮、もっとスペース欲しかった・・・（グ）

第7回（2019年）開催の実施要項が発表された。回を重ねてこのコンクールの評価が年々高まってきており、参加した出場者のひとりひとりが期せずして仙台のシティセールスの役割を担ってこのコンクールの素晴らしさを語っていたに感じている昨今、ますます目（耳）が離せない。時の流れの早さを感じつつ・・・（吾）

庭のサクラソウにも新芽が芽吹き始めました。新しい命が眩しいです。来年の仙台国際音楽コンクールでもどんな若い息吹が、仙台に吹き込んでくれるか楽しみです。（清）

最近、朝6時のNHKFM「古楽の楽しみ」を時計代わりに聴くことがルーティーンとなってきました。布団の中から聴く、出て聴くかは定まっていますが（苦笑）。（W）

昨年11月から広報部門にいらていただきました。まだ新米で見習い期間中です。今回お二人のインタビューを経験させていただきました。これからの活動楽しく一緒に頑張りたいと思います。（S.I.）

今年の冬は周りがインフルエンザにかかった話を聞かぬ、「かかったらチケットを取った公演に行けなくなってしまう」ととピクピクしながら気をつけて乗り切りました。（川）

仙台市長へのインタビューという大役、本当に緊張しました。しかし同時に、芸術を愛する人が集まる楽都仙台という街の良さを、私自身改めて実感出来ました。（M）

概要発表の記者会見に参加して、第7回のコンクールの準備が始まったことを実感。今からドキドキしています。（岡）

今回が最後の編集後記になります。幅広い年代の方々と活動でき、とても貴重な経験になりました。ありがとうございました！（声）

コンクールの概要が決定しました。今回はどんな出会いがあるのか？今からワクワクしています。（早）

ボランティア活動をする中でそれぞれ有意義な時間を過ごされているのは嬉しいことです！（事務局 S）

第7回コンクールに向けて、このボランティア活動も充実した楽しい内容にしていければと思います。（事務局 松）

発行：第7回仙台国際音楽コンクール 広報宣伝サポートボランティア

問合せ：仙台市民文化事業団コンクール推進課（仙台国際音楽コンクール事務局） Tel: 022-727-1872 / e-mail: info@simc.jp / URL: <http://www.simc.jp/>